

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市なかよし学園		
2 指定管理者	社会福祉法人なのはな会		
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 5,241人(前年度比93%) 令和3年度 5,661人(前年度比105%) 令和2年度 5,392人(前年度比98%)		
	《事業》 児童発達支援事業		
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 100,617千円 (93,371千円) ・ その他市が負担した費用 7,781千円 (6,145千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 79,835千円 (84,046千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 令和5年2月、指定管理者の協力のもと、障害者支援課で利用者アンケートを実施した。		

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に沿った事業計画が作成されており、職員も設置目的を適切に理解し、施設運営にあたっている。 利用者個々の特性に寄り添った療育を工夫して行っている。 近隣の特別支援学校や子育て支援機関等と連携し、地域支援の充実に積極的に取り組んでいる。	42/42
II 施設の運営管理体制	事業計画に基づいた運営がなされている。経理書類の作成及び通帳印鑑の管理についても適正に行われている。 また、各種マニュアルを整備しているほか、毎月の避難訓練に加え、近隣の支援学校や社会福祉施設との合同訓練を実施しており、利用者の安全に配慮した運営に努めている。 個人情報の誤送信による事故が発生し、再発防止の研修やマニュアルの整備について再度見直しを行った。	23/24
III 施設・設備の維持管理	冬は廊下と室内の寒暖差が激しいため、保護者より廊下の暖房設備設置を要望する声があがっており、寒暖差改善のためにエアコンを設置し、清掃・衛生管理・施設の保守点検は適切に行われており、利用者が快適に利用できる環境整備に努めている。	24/24
IV サービスの質の向上	サービス水準を確保するため、定期的な職員会議や研修により人材育成を図るとともに、情報共有に努め職員全体でのサービス向上を目指している。 利用児だけでなく、保護者やきょうだい児支援のニーズの把握に努め、利用者からの要望や相談に適切に対応するための体制を整えている。	27/27
V 施設固有の基準	個別支援計画について、利用者1人1人の障害特性に寄り添い、詳細に作成することに加え、様式の見直しを行い、支援者間での情報共有がしやすくなるよう工夫するなど、より効果的な支援の提供に努めている。 指定児童発達支援事業所としての基準を遵守しながら利用者処遇の向上に努めている。	4/4

### 三 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人なのはな会）による自己評価》
<p>園長の異動があったが主任と児発管が中心となり職員全体で連携してきた。在園児については、人工呼吸器を含む複数のケアが必要な医療的ケア児が多く体調管理に留意することが多かった。また発作対応や情緒の不安定さなど児童の状況により1対1対応が必要な場面も多かった。そのような中で在園児誰もが気持ちや意思を大切にされ安全に安心して楽しく活動できるようクラス職員のチームワークや状況の共有を大切に職員全体で取り組んできた。特に医療的ケア児の支援については医療職である看護師の役割と責任は大きく、医療職の職員も安心して勤務できるよう主治医の指示書に基づきながら、保護者とも確認し合いながら取り組んできた。また隣接するあおぞらホームの医療職とも連携しチームワークを強化した。</p> <p>コロナ禍で保護者の参加者は限られる中、保護者参観や様々な行事を通して子どもたちが生き生きと活動する姿や職員や友だちと楽しそうに関わる姿を実感してもらい当園の療育への理解と協力をもらえるよう取り組み、保護者の思いや考え方を真摯に受け止め向き合うことを大切にしてきた。当園としての療育の考え方や児童の育ちについて根拠ある説明や取り組みについて伝えていくことをより意識していきたい。</p> <p>コロナ禍3年が経過したが、継続して感染対策に取り組む支援を止めないことを大切に取り組んできた。休園はあったが感染拡大はせず、日々の療育や行事について前向きに検討してきた。通園バスに関してもあおぞらホームとバスを別便にした。バス1台と運転手1名が増え運営費も負担増となったが感染拡大を防ぐことにつながり良かった。半面、添乗する職員も増えたため朝の準備や受入れ体制でクラスを超えた連携がより必要であった。児童発達支援センターとしての役割や機能について、支援課、アーチル、関係機関と共に単独通園のあり方について引き続き検討していきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和4年度の管理運営については、協定書及び仕様書に従っておおむね適切・良好に行われた。</p> <p>児童の障害種別や特性に応じたきめ細かい療育を行う工夫がなされている。また、近隣の特別支援学校等、地域の関係機関との情報交換や情報共有に取り組むほか、合築のあおぞらホームと合同で子育て支援機関からの相談に対応している。加えて、専門職の配置を生かし、地域の子育て支援機関と事例検討会を行うなど、地域の中で児童発達支援センターとして求められる役割を果たすため、積極的に地域支援に取り組んでいる。</p> <p>保護者支援においては、保護者との個別面談や勉強会を定期的で開催するなど、保護者の不安や悩みに寄り添い、相談しやすい体制を整えている。</p> <p>ただし、ダブルチェック等のチェック体制の不備により、個人情報の誤送信による事故が1件発生しており、個人情報の取扱いについて職員への周知徹底等の必要な措置を講じるよう指導した。</p> <p>以上により、利用児童への発達支援だけでなく、家族支援や地域支援を含め、安定した質の高い支援を提供し、おおむね良好で円滑な管理運営を行っていることから、総合的には高く評価できる。</p>	A

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課